



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

トルコ：大統領選挙の公式結果発表

トルコ高等選挙委員会（YSK）は、大統領選挙（8月10日実施）の公式結果は以下のように発表した。

なお、国内での選挙に先立ち、7月31日から8月3日までの4日間、在外トルコ人による投票が行われた。

候補者名	国内投票数	在外投票数 (7/31~8/3)	国境地域	合計票数	得票率
レジェプ・タイプ・エルドアン	20,670,826	143,873	185,444	21,000,143	51.79%
セラハッティン・デミルタシュ	3,914,359	22,582	21,107	3,958,048	9.76%
エキメレッディン・イフサンオール	15,434,167	64,483	89,070	15,587,720	38.44%
合計	40,019,352	230,938	295,621	40,545,911	100%

評価

公式結果は、選挙後に報道された数値とほとんど変化はなかったが（「トルコ：大統領選挙の実施」『中東かわら版』No.108（2014年8月11日）を参照）、今回の選挙においてクルド系政党である「人民の民主主義党」（HDP）のデミルタシュ候補が、当初6~9%とされていた予想を上回り10%近い9.76%を獲得した事は興味深い結果であったと言える。

最大野党の共和人民党（CHP）と第二党の民族主義者行動党（MHP）の二党連号によって選出されたイフサンオール候補は38.44%と40%には届かず、第一目標としていた決選投票に持ち込むことができなかったが、トルコ国内で、ほぼ無名の状態からここまで支持を広げられた点については、ある程度評価できると言える。

エルドアンが獲得した51.79%という数字をどのように捉えるかにもよるが、1回目の投票で過半数を得て当選したものの、国民の約半数はエルドアンが新大統領になることについて「NO」という判断を下している。経済政策をはじめとした政治手腕は評価出来るものの、権力を自身に集中させたいとの思惑が見えていることに多くの国民が不信感を抱いている。しかしながら、選挙結果を見ても明らかなように、現時点でエルドアンの他に有力な対抗馬がないこともまた事実である。更には、AKP結党からこれまで二人三脚で歩んできたギュル現大統領

はエルドアンが抱く大統領権限強化に否定的だとの見方もあり、二人の関係悪化が懸念されている。

今後、誰が新首相の座に就くのかに注目が集まっているが、8月20日付の報道で、ギョル大統領がこれまで新首相候補として名前が取り沙汰されていた、ダウトオール現外相が新首相として適任であると述べたことに続き、8月21日には、AKP執行部もダウトオール現外相を新首相に推薦すると発表していることから、8月27日に行われるAKP臨時党大会において、ダウトオールが党首に選出された後、首相に就任する可能性が濃厚である。ダウトオールがエルドアンの「イエスマン」となるかは不明だが、このままエルドアンの独裁化が進めば、トルコがこれまで築いてきた民主政治が大きく後退する可能性が生じる。

悲願であった大統領の椅子を手に入れたエルドアンだが、今後のトルコ内政には、クルド問題や、隣国のイラク、シリア情勢等の山積する課題が大きく関わってくるとみられ、新大統領の手腕が一層問われることになろう。

(金子研究員)

関連する『中東かわら版』は以下をご参照願います。

「トルコ：大統領選挙の実施」『中東かわら版』No.108（2014年8月11日）

URL：<http://www.meij.or.jp/members/kawaraban/20140702154326000000.pdf>

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799